

## IEA 石油市場レポートの概要（2015 年 12 月 11 日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 原油価格は、OPEC がマーケットシェアを守るため意のままに生産し続けることを選択した後、12 月初旬に 7 年ぶりの低価格に近づいている。世界市場における過大な供給過剰により 11 月中にも既に価格は低下。直近の原油価格はブレントが約 \$39.77/bbl、WTI はそれより数ドル低い 約 \$36.87/bbl。
2. 2016 年の世界石油需要の伸びは 120 万 b/d と見込まれ、需要減速の最初の兆候が現れる見込み。2015 年第 4 四半期の初期段階での指標では、ピークであった 2015 年第 3 四半期の前年比 220 万 b/d の伸びから 130 万 b/d へと伸びが緩やかになっていることが示されている。2015 年における年間 180 万 b/d の伸びは、中国、米国、インド、そして少々驚くべきことに、欧州に牽引されている。
3. 11 月の世界の石油供給は、OPEC 加盟国の僅かな生産量増加により、5 万 b/d 増加し、9690 万 b/d となっている。全供給量は 1 年前を 180 万 b/d 上回るレベルであり、その伸びの最大シェアは OPEC が占めている。OPEC 非加盟国の供給は 11 月に 5850 万 b/d となっているが、年間の伸びは 2015 年最初の 220 万 b/d から 30 万 b/d 以下へと弱まっている。
4. OPEC 加盟国の原油供給は 11 月に 5 万 b/d 増加し 3173 万 b/d。イラクの記録的な生産とクエートの供給増がアフリカにおける生産減をオフセットしている。2016 年における OPEC への需要は、先月の本レポート見込みと変わらず 3130 万 b/d。これは今年より 160 万 b/d もの相当な増加となる。
5. OECD 諸国の（石油の）商業在庫は、10 月に直近 7 ヶ月間で初めて減少し、10 月末には 29 億 7100 万バレルとなった。世界の在庫は少なくとも 2016 年後半まで積み上がり続けると見込まれるが、そのペースは今年観測されたよりも相当緩やかなものになる見込み。新貯蔵設備及び予備貯蔵設備が追加的に 3 億バレルを貯蔵できると見込まれる。
6. 世界の精製稼働は、季節的な定期補修が終わりに近づくとつれて、11 月に 140 万 b/d 増加し、7990 万 b/d となった。11 月の利益率は、米国で低く、他の地域で高く、引き続きガソリンとナフサで支えられながら、健全なレベルを維持している。しかしながら、12 月上旬には精製マージンと利益率は低下した。